



Title	札幌農学校遊戯会の成立過程
Author(s)	鈴木, 敏夫
Citation	北海道大學教育學部紀要 = THE ANNUAL REPORTS ON EDUCATIONAL SCIENCE, 75
Issue Date	1998-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/29561
Type	bulletin
File Information	75_P173-180.pdf



[Instructions for use](#)

札幌農学校遊戯会の成立過程

鈴木 敏 夫

Athletic Meeting of Sapporo Agricultural College

Toshio SUZUKI

はじめに

日本の運動会は1874年(明治6)3月、東京築地の海軍兵学寮においてイギリス人A.ドゥグラスの指導によって行われた「競闘遊戯会」であったというのが定説になっている。

同年2月の海軍省宛の「競闘遊戯会上申書」(生徒遊戯御許容ニ付テ)によれば、「欧米各国海軍学校ニハ遊戯ノ具ヲ備ヘテ講究ノ余暇ニ生徒ヲ楽シマシメ以テ勞ヲ慰ムルノ法有之(中略)随テ學術益進歩身體愈健強相成申候¹⁾」とあり、その開催の意図が生徒の身体養護とレクリエーション活動の奨励にあったことが分かる。またそのプログラムには徒競走・跳躍に加えて、目隠し競走・障害物競走・二人三脚などの遊戯種目があり、今日の学校運動会の原型とおぼしきものが見られる。とりわけ陸上競技種目の用語の解釈に相当苦慮したと思われ、直感的イメージによるユニークな表現で示されている。このように日本の最初の運動会は、陸上競技と遊戯などの娯楽番組を加えた即興的な運動の集会であった。

海軍兵学寮における陸上競技・遊戯併用型運動会は、開拓使直轄の札幌農学校に引き継がれていく。極めて興味深いことに、これら二つの運動会は前者はイギリス海軍学校、後者はアメリカマサチューセッツ農科大学をモデルとしており、その移植の経緯も異なり、かつ両教育機関の相互依存性も全く見られない。従って、明治維新时期に前後して二つの運動会が高等専門教育機関を母体として成立したことになる。しかしながら兵学寮競闘遊戯会は一回限りの開催であったのに比べ、札幌農学校遊戯会は学校行事化され、教育上の観点から継続開催された。それ故、同校の運動会が後に盛行を見る北海道内の中等諸学校や小学校運動会にはかりしれないインパクトを与えたのである。

本稿は黎明期における運動会の典型として札幌農学校遊戯会を取り上げ、その成立事情や実施内容などについて考察したいと思う。

I 初期の札幌農学校遊戯会

1879年(明治11)5月16日、札幌農学校は札幌警察課に次のような届出をおこなった。

力芸施行ノ件届 来ル二十五日頃本校生徒一統運動の為校前ノ明地ニ於テ力芸施行候間予テ此ノ段御届ニ及候也²⁾

いわゆる遊戯会施行の許可申請書である。警察課に届けなければならない理由は、実施会場が農学校用地でなかったからである。遊戯会の会場の特定については二つの説がある。一つは、「明治十一年札幌農学校時代にマサチューセッツ大学クラーク先生と同道し来れる外人の発起によりアスレチックスポーツの名を以て第一回運動会が北一条通り(現北辰病院前)に於て行われ」(「遊

戯会記録)であり³⁾、一つは、「本庁ノ門前ニテ力戯ヲ致シ候」とする新渡戸稲造書簡の描写である。その真偽については当時の札幌市街地図による検証を要するが、札幌停車場沿いの北一条通りは大通りで道が良く、草も生えて遊戯会会場に利用する上で格好の場所であったのであろう。草創期の札幌農学校は運動場もなく、校舎・寄宿舎と農園によって占められていた。校庭の未整備状況は、マサチューセッツ農科大学(以下M.A.Cと呼ぶ)に倣った体育の一科としてのミリタリー・ドリルの実施が演武場に加えて、集団的操練の場所を屯田兵操練場を借用したことからも窺える。従って校庭を使用しての遊戯会は明治16年以降であるから、それ以前は大通りや空地が利用されたと思われる。とまれ遊戯会は1879年(明治11)に第一回が実施されたことは上記の公文書によって明らかである。ここでは遊戯会は「力芸」と示され、開催の趣旨も「生徒一統運動の為」とだけ表現されている。

遊戯会はどんな内容のものであったのであろうか。初期の遊戯会のありようは、新渡戸稲造書簡(明治11年7月23日付)によって窺い知ることが出来る。新渡戸が東京外国語学校大学予備門を中途退学し、開拓使札幌農学校官費生として入学したのは1877年(明治10)であった。稲造から養父時敏、養母せき宛に書かれた約5年間の書簡は、農学校時代の新渡戸の生活ぶりを知る上で貴重である。この中には遊戯会に関する三通の書簡がある。(第一回遊戯会二編・第二回遊戯会一編)初期の遊戯会に関する第一次史料の発掘が困難な中で、この書簡は重要な意義を有する。

○ 第一回遊戯会(明治11年7月23日付書簡)

六月一日当校教師之談並ニ助言ニ因リ生徒一同合シ、各々金貳拾銭ヲ出シ亦タ教師等各五円校長三円其の他役員各々金壹円を合せ生徒中より役員を選ビ賞品ヲ求めて本庁之門前にて力戯を致シ候但シ見物人四五百人斗リ戯之名左之如シ

第一 婦久呂(ヲ着テ早足) 第二 玉(投ゲ) 第三 石(投ゲ) 第四 飛ブ
第五 第六 第七

右之外数三ツ四ツ斗リ有之候

右之諸芸ニテ賞品ヲ受け候人員は藤田九三郎、永井於兔彦、鶴崎久米一、宮部金吾、伊藤英太郎、伊藤鑑太郎、山田義容、渡瀬寅二郎、小野兼基、伊藤一隆、太田稲造 第一等賞は二円以上之品にて得シ者ハ藤田、永井並ニ太田に御座候

(明治11年8月1日付書簡)

第六月一日当校教師之助言及ビ指導ニ因テ生徒一同各々金貳拾銭教師各々五円校長三円役員各々壹円を出シ認高を以て賞品を求め亦タ生徒中より長、書記、世話人を選び本庁之門前にて力芸を興行シタリ

右之力芸左之如シ但シ不要之部分ヲ除ク 見物人凡ソ四五百人

上等之賞品ヲ受けし者ハ藤田九三郎、永井於兔彦並ニ太田稲造 但シ品物之価二円以上ノ物は西洋手拭、手帳、杖、香水、鏡、紙、筆、手婦久呂等ニ御座候

○ 第二回遊戯会(明治12年6月1日付書簡)

昨日昨年之通り遊戯会を相催し候処私事一等賞四つ受け候(金高ハ四円余リ)賞品左之如し 一 蒙袋走 黒蝠傘 鼻拭 二 拾芋蝠足 イモヒロイ 写真(之は賞品の代に写真を取りなり) 三 停脚高跳 ナワヲタカクトブ事 杖、鼻拭 靴下 四 一躍一跳 肩掛 手袋 石鱈 楊枝 右の写真は八日頃ニ相取り早速御送り可申候

新渡戸書簡によれば、第一回遊戯会の開催は明治11年6月1日であった。警察課への届出には5月25日頃となっているが、そが一週間遅れの開催となった理由は不明である。遊戯会は当初「力

芸」ないし「力戯」と呼ばれたが、第二回からは固有名詞としての遊戯会が用いられている。従って札幌農学校の運動会は、その開催の初期において「遊戯会」を正式名称として確定したことが分かる。遊戯会の発案は「当校教師ノ談並ニ助言ニ因リ」とあるから、それが外国人教師の関与によって成立したことはほぼ間違いない。

遊戯会の運動種目の構成については、当時のプログラムの欠落によって明らかにし難

いが、新渡戸書簡に示された「さし絵」からある程度推測することが出来る。ここには投・跳運動（石投げ・玉投げ・ジャンプ）、ハードル走、遊戯運動（ポテトレース・目隠し走・蒙袋走・兎飛び）の様子が描かれている。さらに本文中の「右の外三ツ四ツ斗り有里之候」が何を意味するのか不明であるが、おそらく徒競走ではないかと考えられる。運動種目の特徴を明らかにする為に、第三回遊戯会に関する志賀重昂の日記の一文を紹介しておきたい。

今日は愈遊戯会に当たりたれば、昨日より色々容易あり、午前九時より射的あり、得意の秘術を顕はした。予は不中なり。頃刻にして森校長はじめ井川氏臨席ありて半英里走あり大中根一等賞を得ぬ。それより帰りて待った程に十一時に午食し鈴木の小僧などと戯れ居る中十二時より又開会臨席には校長、教頭教員サンマース夫人なり。これに茶、茶菓など、見物人山の如し。三足奔走、飛っこ、袋入、百碼電奔、芋拾ひ等済みて雨天近ければとて漸く戯を早めぬ。捕豚は仕掛けの大層にも拘わらず面白かりき。ベースボール終わりに綱引きあり、全校生徒を二組に分かつ。即ち紅白なり。最初に白勝ちを得たり次に紅勝ちなして終り、旗取りあり⁴⁾。

志賀の記述には射的・奔走・百碼電奔・ベースボール・綱引き・旗取りなどの運動種目が見られる。近代スポーツとしての陸上競技（Track and Field）は、当時の日本で行われた形跡はないが、初期の遊戯会の実施内容を見る限りその原型とおぼしき競技は存在している。競技に必要な用具もなく、石・ボール・連柵など全て自前の用具であった。問題は、この競技が札幌農学校にどのようにして流入したかである。同校における陸上競技やベースボールの受容は、M.A.C.のスポーツ動向との対比において明らかにされねばならない。

II マサチューセッツ農科大学モデルの運動会

札幌農学校遊戯会は、同校の独創的な発案によるものであったのであろうか。ここでは、遊戯会のオリジナリティについて吟味してみたい。

札幌農学校二期生の宮部金吾は「農学校の遊戯法」の中で、初期の遊戯会を次のように回想している。

本学の前身農学校時代に於ける運動界の始めは明治十一年の五月か六月頃でした。その当時は



（第一回札幌農学校遊戯会種目）

教師のことごとくは外国人教師で、米国マサチューセッツ農科大学出身の人達から成っていたために、その母校に於いて行われていたそのアスレチックなるものをそのまま輸入していた。そのスポーツは現代の競技と大体同一で、マサチューセッツ農科大学の同窓会報『アラムナイ・アソシエーション』を見るとあちらで行われているのとはほぼ同一のものが行われた⁵⁾。

ここでは宮部は遊戯会の成立を、M. A. C モデルの移植という立場から回想しているが、その成否については当時の M. A. C におけるスポーツ活動、とりわけ陸上競技の実施状況とそれに基づく運動会の実態把握を不可欠とする。

M. A. C の学生の競技活動は、カレッジスポーツの発展と照応しており、しかも技術的・組織的未成熟さを内包しつつも、適度な競技性を保持していたが故に、1870年代後半にはスポーツに対する学生間の興味を集めはじめていた。最初の10年間、チーム間の試合はベースボールとボートそれにフットボールに限られていた。クラス内のゲームが学生の注目を集めていた。組織的プレーは厳格にアマチュア精神に律せられ、チームは全て学生の自主管理・訓練・財政を基調としていた。ベースボールは最初にキャンパスで確立したスポーツであり、春秋のカレッジスポーツとして、確たる地位を占めるに至った。当初ベースボールは学生が本業の余技として余暇を善用する目的で導入され、ゲームは大体において親睦形式で推移したとされる。1871年に最初のチーム「Aggies Team」が A. ニコルス、S. ワーナー、W. ホイラーなど数名の学生によって組織され、これを契機としてベースボールは普及していった⁵⁾。しかしながら、試合の条件は1870年代から1880年代にかけては、施設・用具ともに未発達であったことから必ずしも満足するものではなかった。大学間の試合の興味は学生の心を奪うものではなかったにせよ、チームを組織するには十分な状態にあった。1877年頃にはマロン、ホワイトなど色とりどりのカレッジユニホームが登場し、学生間にベースボールの関心が高まった。

ボート熱はアマーフト大学との対抗戦の始まりとともに高揚し、コネチカト河のイングルサイドを会場として開かれた第一回全国大会ボートレースでの勝利でその絶頂に達した。農科大学クルーは全長三マイルのコースを十六分十六秒という全米記録を打ち立てて優勝した。クラーク学長はこの快挙に対して絶大なる賛意を示した⁶⁾。

フットボールは1870年代にカレッジスポーツとして発展した。それは70年代後半のアマーフトの二つの大学に影響を与えた。M. A. C の最初のチームは、1875年に F. コッドマンによって組織され、創部後4年目の1879年に他大学との対抗試合が始まった。翌年には新しいユニホームが考案され、白のジャケット・パンツ、栗色と白色交じりのストッキングは M. A. C の正規のユニホームとなった。こうしたフットボールの普及を背景に、学友会「サイクル」は称賛すべきフットボールに対する他の学内スポーツ（ベースボール・ギムナスティクス）の従属を要求している。

1875年以降の15年間においてフェンシング・ボクシング・スキー・カヌー・射撃・自転車・テニス・陸上競技などのニューススポーツが普及した。一方あらゆる形式の大学間競技に加えて学内スポーツが高まり、個人参加を求める大会が益々普及していった。このように学生がスポーツによって大学生活をエンジョイし、「自ら楽しむスポーツ」として受容しはじめると、全校規模での Athletic Meeting が発案される。M. A. C では1875年に新たに組織された「大学競技連盟」(College Athletic Association) が中心となって、運動会が学内のグラウンドで開催された。内容は陸上競技を中心に、遊戯種目を加えた即興的なもの (Track Events) であった。M. A. C の運動会種目は、フィールド競技ではハンマー投・砲丸投・走幅跳・走高跳で、トラック競技では100ヤード・200ヤード・四分の一マイル・二分の一マイル各レース、そしてポテトレース（このレースは芋を一

人が10個ずつ一尺位の距離に置き、スタート時点で籠を持つ人がいて、競技者は最初に一番手近な芋を取り戻ってきて再び二番目に近い芋を取り籠に入れる)、また麻袋で出来たサックレース(麻袋に身を入れてホッピングしながら競走する)などであった。これらの遊戯は、農科大学という特殊な環境において、学生達によって考え出されたユニークな種目であった⁹⁾。

純競技としての陸上競技(Track and Field)は、この時代のアメリカの大学では未だ普及していなかった。マッキントッシュはイギリスにおける近代陸上競技の成立に、「アマチュア陸上競技連盟」(Amateur Athletic Association)の組織化が重要な意味を持っていたことを明らかにしているが¹⁰⁾、それがアメリカに影響を及ぼすのは1880年以降と見られる。しかしながら、競争・跳躍・投擲を内容とする陸上競技の原則や方法が確立していく過程で、既に70年代のイギリス型陸上競技の受容は北アメリカを中心に進行していた。

M. A. Cがカレッジスポーツの普及の過程で、一般学生のスポーツ志向に対応する為にAthletic Meetingを開催し、しかもM. A. Cの体育科目の中心をなしたミリタリー・ドリル(操練)やギムナステクス(体操)ではなく、陸上競技種目をメインとしたことは注目されよう。

初期の札幌農学校遊戯会を見る限り、それがM. A. Cの運動会の内容と酷似していることに気づく。明治十一年の遊戯会に関する新渡戸書簡は、外国人教師の指導・助言によって遊戯会が開催されたことを示唆している。教師はペンハローをはじめM. A. C出身者であり、また書簡にしたためられた実施内容やさし絵は、M. A. Cの運動会の内容と符号する。同じく宮部によって農学校卒業後数年を経て語られた遊戯会についての回想は、筆者のM. A. Cの運動会関係資料調査によって、M. A. Cモデルの運動会の移植とする彼の見解の正しさが証明された。

III 遊戯会組織の確立

遊戯会は明治11年に始まり、大正12年の第40回大会を最後に30数年にわたるロングランを以てその幕を閉じた。時代が降るにしたがって遊戯会は、日本における近代陸上競技の普及を背景に次第に陸上競技種目中心の内容で構成され、いわゆる競技的色彩の強いものとなっていった。

遊戯会がかくも長期にわたって開催された背景は何であったのであろうか。それは、明治20年前後における遊戯会の組織基盤の確立と無縁ではない。

「札幌農学校遊戯会規則」(明治23年5月16日)¹¹⁾

第一章 名称

第1条 本会ハ札幌農学校遊戯会と称ス

第二章 位置

第2条 本会事務所ヲ札幌農学校寄宿舎ニ置ク

第3条 遊戯会場ハ札幌農学校校内ト定メ校外ニ於テ開会スル時ハ其都度新聞紙ヲ以テ広告スヘシ

第三章 目的

第4条 本会ハ札幌農学校学生生徒ノ体格ヲ強壯ニシ活発ノ氣風ヲ発達スルヲ以テ目的トスル

第四章 会員

第5条 本会ノ会員ヲ左ノ三種トス 通常会員 賛助会員 特別会員

第6条 通常会員ハ札幌農学校学生及ヒ生徒トス

第7条 賛助会員ハ札幌農学校卒業生トス

第8条 特別会員ハ札幌農学校教官及ヒ本校ニ関係アルモノトス

第五章 役員

第9条 本会ノ役員ヲ定ムル事左ノ如シ 会長一名 幹事五名

第10条 会長ハ本会一切ノ事務ヲ総理ス

第11条 幹事ハ本会ノ庶務ヲ指弁シ出納記録及ヒ報告書等ノ編纂ニ従事スルモノトス

第12条 本会ニ評議員十八名ヲ置ク

第13条 評議員ハ各年級ヲ代表シ議事ニ興ルモノトス

第14条 会長及ヒ幹事ハ学生生徒總會ニ於テ投票ヲ以テ学生中ヨリ選挙スルモノトス

第15条 評議員ハ本科予科各年級ヨリ二名宛其級中ノ投票ヲ以テ選挙スルモノトス

第16条 予科生徒ハ遊戯会開会前ニハ各級ヨリ二名宛臨時委員ヲ出シ予科生徒ニ関スル件ヲ処理セシムヘシ

第17条 役員ハ皆名誉職トス

第六章 会計

第18条 本会ノ費用ハ学生生徒ノ積立金賛助会員ノ補助金及ヒ特別会員ノ寄付金ヲ以テ之ヲ支弁ス

第19条 本会会員外ト雖モ本会ノ主旨ヲ賛成シ金員物品等ヲ本会ニ寄付スル者アル時ハ本会ノ名ヲ以テ謝状ヲ発シ寄付者ノ姓名ヲ帳簿ニ録シテ永ク是ヲ保存スヘシ

第20条 通常会員及ヒ賛助会員ハ何時ト雖モ会計帳簿ヲ検査スル事ヲ得ルモノトス

第七章 議会

第21条 議会ハ分テ大会及ヒ小会ノ二種トス

第22条 大会ハ本会役員及ヒ評議員ヲ以テ組織シ出席人員ハ総数ノ五分之四以上ニアラサレバ議決ノ効ナキモノトス

第23条 小会ハ役員ヲ以テ組織ス

第24条 大会ハ左ノ事項ヲ審議ス 本会ノ利害ニ関スル重要事項 本会諸規則ノ制定及修正

第25条 通常会員二十名以上ノ請求アル時ハ大会ヲ開ク事ヲ得

第26条 大会ハ毎年一回開会ス

第27条 小会ハ必要アル毎ニ開会ス

第八章 遊技

第28条 遊戯会ハ毎年春秋ノ両期ニ開会ス

第29条 遊戯ノ種類ヲ分テ三等トシ一等遊技ニハ三等賞迄ヲ与ヘ二等三等ノ遊技ハ賞品ヲ二等或ハ一等ニ止ムルアルヘシ

第30条 札幌農学校校長ヲ以テ審判長トシ教官ヲ以テ審判官トシ学生生徒ヨリ各二名ヲ審判補助員トス

本会の目的は、「生徒ノ体格ヲ強壯ニシ活発ノ気風ヲ発達スルヲ目的トスル」(第4条)に見られるように、主として体育上の観点から位置づけられている。会員は通常・賛助・特別会員の三種に分けられ、農学校在学生、卒業生ならびに教職員を対象とした文字通り全校組織であった。役員は会長以下全て農学校生によって構成され、こうした学生主体の自主運営方式は、遊戯会の大きな特色となっていた。遊戯会は「毎年春秋ノ両期ニ催スモノトス」(第28条)とあるが、実際は春期がメインであった。会務は本科生・予科生のクラス代表委員によって遂行され、年一回の大会(総会)において遊戯会の運営全般にわたる方針が確認された。明治23年以降になると、

組織としての遊戯会は「大会報告書」を作成し、競技成績（順位・タイム）が公表された。近代的な組織原則に基づく遊戯会組織の確立は、当時の他の高等教育機関に見られない画期的なものであった。

「遊戯会規則」がいつ頃定立したかは詳かではない。遊戯会が定着する明治10年代後半に定められた可能性もあり、今後の子細な検討を必要とする。

おわりに

札幌農学校遊戯会は M. A. C の運動会をモデルとして、M. A. C 出身の農学校教師のアドバイスを受けながら明治11年に成立した。

当時、スポーツなどの西洋的な運動習慣を持たなかった農学校の学生達にとって、初めて経験する運動の集会であった。盛岡の実家宛に送られた遊戯会に関する遊戯会に関する新渡戸書簡は、そのありようを両親に理解させる為に、わざわざ「さし絵」を挿入しているように、一般の人々には運動会の存在自体が知られていなかった。

既に述べたように、農学校遊戯会は、陸上競技・遊戯併用型の運動会であった。遊戯会成立後の1883(明治16)には、東京大学予備門構内のグラウンドで大学予備門合同の運動会が開催された。東京大学の運動会の特色は、レクリエーションな遊戯種目を排除し、近代陸上競技的内容の種目で構成されたことである。(純競技型運動会)それは同大学の外国人教師 W.ストレンジが本場イギリスの陸上競技を学生達に指導したと深くかかわっている。こうした二つの型の運動会は、明治10年代後半以降盛行を見る諸学校の運動会のプログラムの内容に大きな影響を与えた。最後に、遊戯会の競技内容を規定する「競技規則」の特徴について触れておきたい。

- 第1条 各遊技ノ始終ハ鐘声を以テ報ス
- 第2条 各遊技ノ始メ鐘声ヲ以テ時刻ヲ報スル時ハ競技者ハ五分以内ニ会場ニ集ルヘシ若シ五分ヲ過ル時ハ欠席ト見做除名スヘシ
- 第3条 各競技者始技ノ合図ハ砲声ヲ以テ之ヲ報ス
- 第4条 競技者ハ合図前ニ発走スル者ハ合図者ノ指図ニ従ヒ三尺之ヲ退クヘシ再三之ヲ犯ス者ハ除名スヘシ
- 第5条 競技者ノ位置ハ競技者直ニ籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第6条 競技者ノ位置ハ内圈ヨリ之ヲ起算ス
- 第7条 前回ノ遊戯会ニ於テ勝ヲ得タル者ハ次回ノ同遊技ニ加ル時ハ其競技ニ応シテ若干尺ヲ隔テ後方ヨリ発走セシム
- 第8条 競技者ハ他ノ競技者ヲ妨害スルヲ得ス故意ニ妨害ヲナスモノト認ムル時ハ審判官ノ意見ヲ以テ除名ス
- 第9条 競技者ノ優劣ハ審判長ノ判定ヲ以テ最終トス若シ両者優劣ナキトキハ再演セシム
- 第10条 長飛、砲丸抛方、槌或ハ石ノ抛方、棒飛、高飛及ビー躍一跳ノ如キハ三回之ヲ試ムルヲ得抛方ノ外ハ距離ハ爪痕トノ中間ヲ採ル三回仕損スル時ハ除名ス
- 第11条 競技者ハ本規則ヲ遵奉スルハ勿論万事審判官、合図者及ヒ役員ノ指揮ニ従フ可シ

これによれば、競技のアナウンスは全て銃声を以て行われ、選手は集合時間5分以内に参集し、遅れた場合は棄権扱いとされる。大会運営の迅速性の強調である。スタートは「砲声」によって行われ、フライイングと失格規定が明示されている。クジ引きによる疾走コースの決定、競技者

の妨害による失格、フィールド種目の三回試技とレフリーの絶対的権限などの条項は、今日の競技会のルールの骨格をなすものである。

註

- 1) 『海軍兵学寮・上巻』165頁
- 2) 北海道大学『北大百年史 札幌農学校史料(一)』358頁, 1983年
- 3) 「遊戯会記録」は明治期の札幌農学校遊戯会に関する史料集であり, 前文が手書きとなっている。作成年は不明であるが, おそらく昭和初期のものであろう。
- 4) 志賀重昂『在札幌農学校第弐年期中日記』明治16年6月3日
- 5) 『北海道帝国大学陸上競技部報』107頁, 1933年
- 6) ベースボールクラブ「Aggles Team」組織者の一人であるW.ホイラー(Wheeler)は, クラークとともに来道した札幌農学校教師であった。彼は農学校の学生にベースボールを指導した可能性は高いと思われる。
- 7) 「普通の場合なら, 公式の報告書の中で農科大学におけるボート熱に言及することは浅薄のそしりをまぬがれないが, わが校の最古にして最大の精鋭が練習の機会とて余りなかった六人の農家の子弟に敗北を喫したのであるから, 今回は特別と考えてよいと思う。しかもこれら農家の子弟が競争相手をぐんぐん引き離しただけでなく, 他のいかなる大学のクルーが過去に出した記録よりも速く, 三マイルを漕いだのであるから尚更のことである。この勝利は漕艇者に極めて感激的なものであったし, 同時にそれによって本学に対する世間の眼はさらに好意的なものになったと思う。ポストン周辺をはじめ, 全国各地の数知れぬ大勢の人々が初めて本学の存在とその価値とに気づくに至った。」『Annual Report of M. A. C.』, 1871年
- 8) 『History of Football』Massachusetts Agricultural College, 1930年
- 9) 『Brief History of the Massachusetts Agricultural College』, 1970年
- 10) P. C. McIntosh『Sport in Society』, Alden Press, Oxford, 63頁
- 11) 「第拾一回遊戯会報告」札幌農学校遊戯会(明治23年5月16日)
- 12) 「札幌農学校遊戯会規則・別表」(明治23年5月16日)